

平成27年8月18日

平成27年度病虫害発生予報第5号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稲	いもち病（穂いもち）（防除情報第8号継続）	—	やや多
	紋枯病	やや少	やや少
	縞葉枯病	少	少
	トビイロウンカ（防除情報第10号）	やや少	並
	コブノメイガ	少	少
	穂吸汁性カメムシ類（防除情報第11号）	並	並
大豆	ハスモンヨトウ	並	並
いちご （育苗床）	うどんこ病	並	並
	炭疽病（ <i>Glomerella cingulata</i> ）	並	並
	輪斑病	並	並
	ハダニ類（注意報第1号）	多	多
アスパラガス	斑点性病害	やや多	やや多
	アザミウマ類	やや多	やや多
かんきつ	かいよう病	やや少	やや少
	黒点病	やや多	やや多
	ミカンハダニ	並	並
	チャノキイロアザミウマ	並	並
びわ	がんしゅ病	並	並
	ナシヒメシンクイ	並	並
果樹共通	カメムシ類（技術情報第3号）	並	少
茶	炭疽病	並	並
	チャノキイロアザミウマ	並	並
	チャノコカクモンハマキ	やや少	並
	チャノホソガ	やや少	並
	カンザワハダニ	並	並
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	並
	クワシロカイガラムシ	やや少	やや少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

普通期水稲

1. いもち病（穂いもち）

平成27年7月30日付け、病虫害発生予察防除情報第8号を継続。
その後の発生状況等については以下のとおりである。

(1) 発生状況等

ア 8月上旬の巡回調査（87筆）の結果、葉いもちの発病株率は1.8%（0.9%）、発生圃場率は36.8%（13.0%）で、平年よりやや多い発生であった（図1、2）。

イ 8月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、葉いもちの発病株率は19.0%（0.1%）であった。

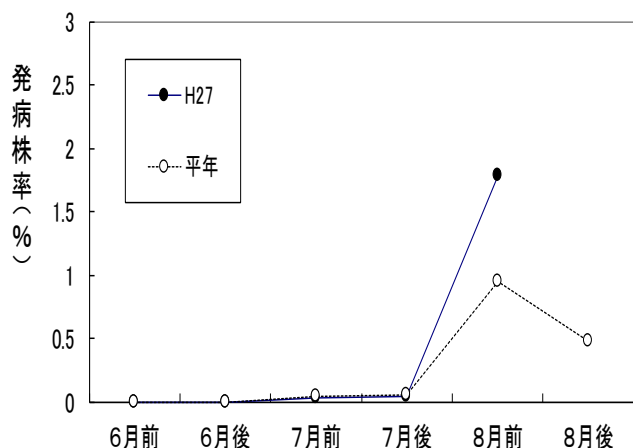


図1 葉いもち（普通期水稻）の発病株率の推移

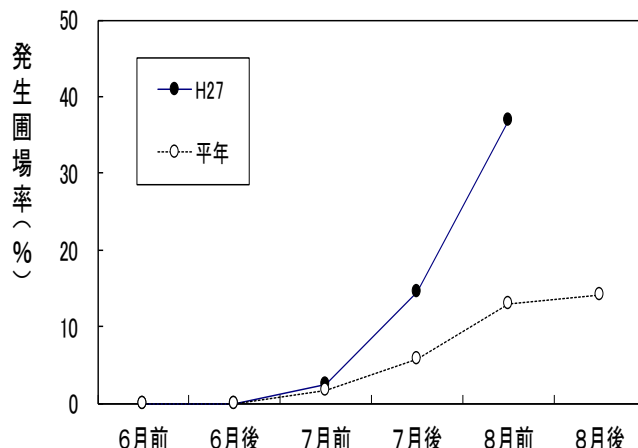


図2 葉いもち（普通期水稻）の発生圃場率の推移

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査（87筆）の結果、発病株率は0.6%（1.1%）、発生圃場率は11.5%（18.7%）であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（9.3%）。

(3) 防除上注意すべき事項

粉剤及び液剤は株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に散布する。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査（87筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.2%、発生圃場率23.6%）。

イ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（0.1%）。

ウ 8月上旬の巡回調査（87筆）の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.1頭（0.3頭）、発生圃場率は65.5%（63.5%）であった。

エ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、株当たり虫数は0.1頭（0.3頭）、寄生株率は8.0%（18.3%）であった。

4. トビイロウンカ

平成27年8月18日付け、**病害虫発生予察防除情報第10号**による

5. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査（87筆）の結果、食害株率は0.4%（10.9%）、発生圃場率は9.2%（71.6%）であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場（無防除）調査の結果、食害株率は16.0%

(30.5%)であった。

6. 穂吸汁性カメムシ類

平成27年8月18日付け、**病害虫発生予察防除情報第11号**による

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(15筆)の結果、幼虫の寄生株率は3.7%(4.1%)、株当たり虫数は0.1頭(0.5頭)、白変葉発生圃場率は53.3%(52.1%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、幼虫の寄生は認めなかった(寄生株率2.3%、株当たり虫数0.3頭)。

ウ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年よりやや多く推移し、8月3半旬に急増した(図)。

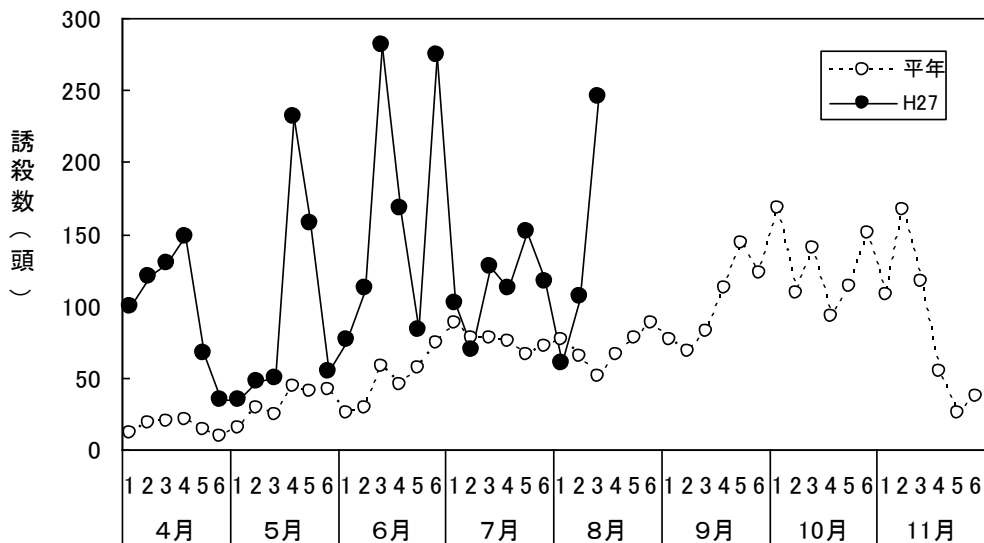


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越)

平年:H17~H26年の平均値(最大・最小値除く)

(月・半旬)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。

イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.1%、発生圃場率3.0%)。

(3) 防除上注意すべき事項

夏季の高温時は、白いカビは認められなくなることがあるが、病原菌は残存しているので、本圃へ病原菌を持ち込まないように育苗床での防除を徹底する。特に、株冷処理する場合は入庫前に苗の選別と薬剤防除を徹底する。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は0.006%(0.2%)、発生圃場率は3.0%(10.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

定植前までの薬剤防除や定植苗の選別を徹底し、本圃に罹病株を持ち込まないようにする。特に、株冷処理する場合は入庫前に苗の選別と薬剤防除を徹底する。

3. 輪斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は15.8%(11.2%)、発生圃場率は48.5%(52.2%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

葉かぎした被害葉は伝染源となるので圃場外に持ち出し処分する。

4. ハダニ類

平成27年8月18日付け、**病害虫発生予察注意報第1号**による。

アスパラガス

1. 斑点性病害

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病側枝率は12.8%(過去8カ年平均3.2%)、発生圃場率は41.7%(過去8カ年平均36.6%)であり、一部多発圃場があった。

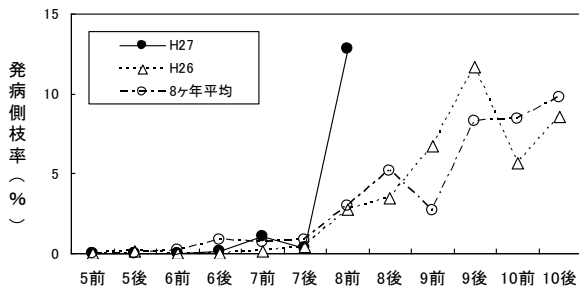


図 斑点性病害発病側枝率の推移

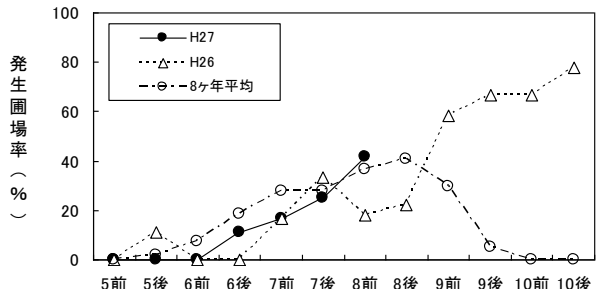


図 斑点性病害発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 通風の悪い条件下で発生しやすいため、過繁茂にならないよう茎葉の整理等を行い、換気を徹底する。

イ 罹病葉は伝染源となるので圃場外に持ち出し処分する。

2. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(12筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は22.4頭(過去8カ年平均12.2頭)、発生圃場率は66.7%(過去8カ年平均71.4%)であり、一部多発圃場がみられた。

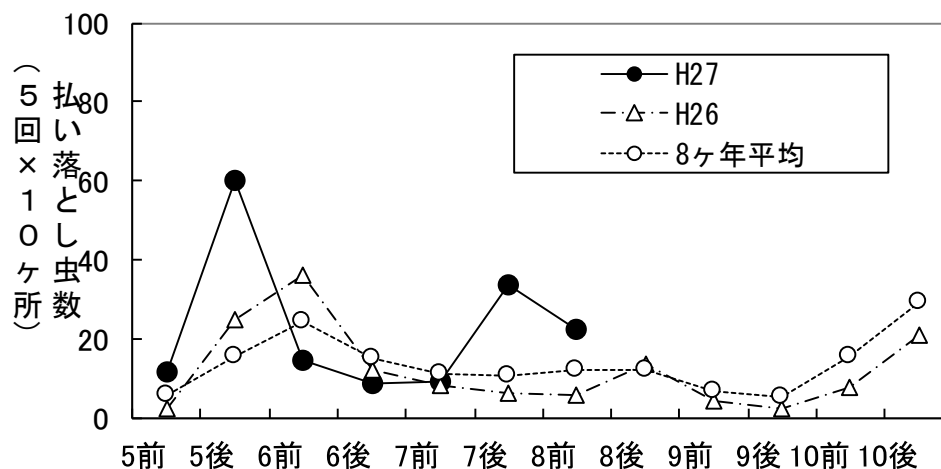


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

(3) 防除上注意すべき事項

ア 하우스内および周辺の雑草は本虫の生息・増殖源となるので除去する。

イ 薬剤散布は株の内部まで十分付着するよう丁寧に行う。

ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.2%(0.4%)、発生圃場率は2.8%(18.7%)であった。果実の発病は認めなかった(発病果率 0.3%、発生圃場率 9.8%)。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病果率は16.0%(4.9%)、発生圃場率は63.9%(37.0%)であり、一部に多発生の園地を認めた。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は13.4%(12.7%)、発生圃場率は58.3%(57.5%)であった。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、果梗部の被害果率は1.8%(1.4%)、発生圃場率は19.4%(21.7%)であった。果頂部の被害は認めなかった(被害果率 0.8%、発生圃場率 13.6%)。
イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年よりやや少なく推移している(図)。

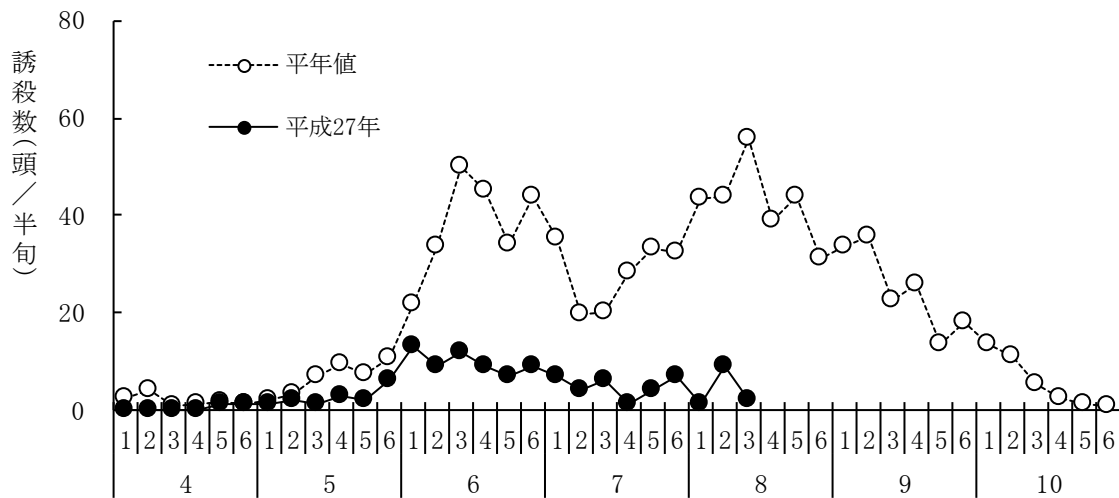


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (月・半旬)
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 下表に示した発生ピーク予測日を参考にして適期に防除する。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸	長崎 (平年値)
第6世代	8/24	8/23	9/5	8/26	9/10	8/22
〃 (前年)	8/23	8/25	9/5	8/26	9/9	—
第7世代	9/11	9/11	9/27	9/13	10/4	9/8
〃 (前年)	9/12	9/13	9/29	9/15	10/3	—
第8世代	10/2	10/4	10/27	10/5	11/12	9/29
〃 (前年)	10/5	10/7	11/1	10/10	11/9	—
標高(m)	27	4	43	10	58	27

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2015年8月16日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3: 表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

び わ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は3.6%(3.4%)、発生圃場率は50.0%(45.8%)であった。

2. ナシヒメシンクイ

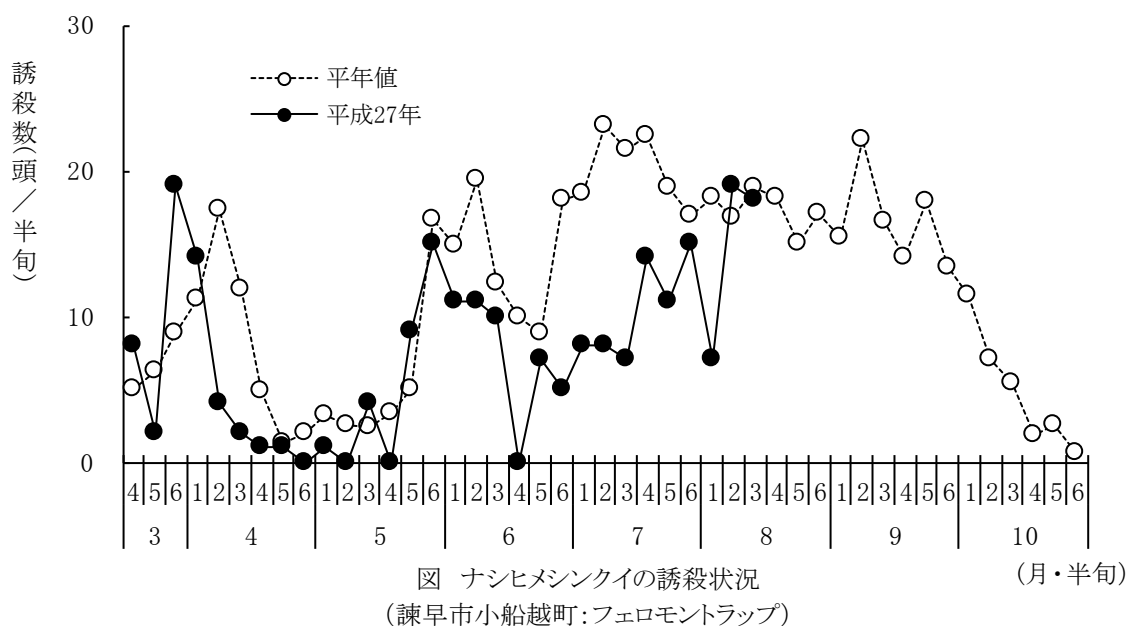
(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、寄生枝葉率は0.4%(0.2%)、発生圃場率は10.0%(発生圃場率7.5%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年並で推移している(図)。



(3) 防除上注意すべき事項

せん定跡に食入しやすいので、せん定や芽かき後には必ず防除する。

果樹共通

1. カメムシ類

平成27年8月18日付け、**病害虫発生予察技術情報第3号**による。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は6.6枚(2.8枚)、発生圃場率は40.0%(49.4%)であり、一部地域で多発圃場を認めた。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は25.9頭(22.2頭)、発生圃場率は100%(86.3%)であった。

3. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、巻葉は認めなかった（1㎡当たり巻葉数 0.1枚、発生圃場率 15.8%）。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査は平年並で推移している（図））。

ウ 向こう1か月の気温は平年並または高く推移する見込みであり、本種の発生に好適である。

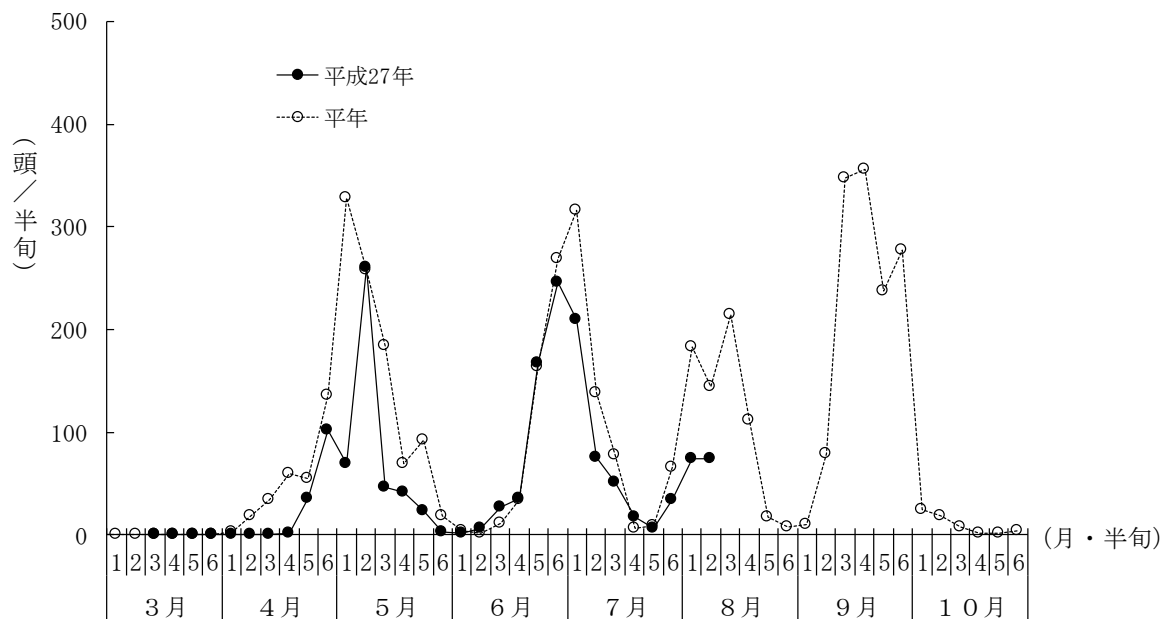


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、巻葉は認めなかった（1㎡当たり巻葉数 0.1枚、発生圃場率 15.5%）。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は平年並で推移している（図）。

ウ 向こう1か月の気温は平年並または高く推移する見込みであり、本種の発生に好適である。

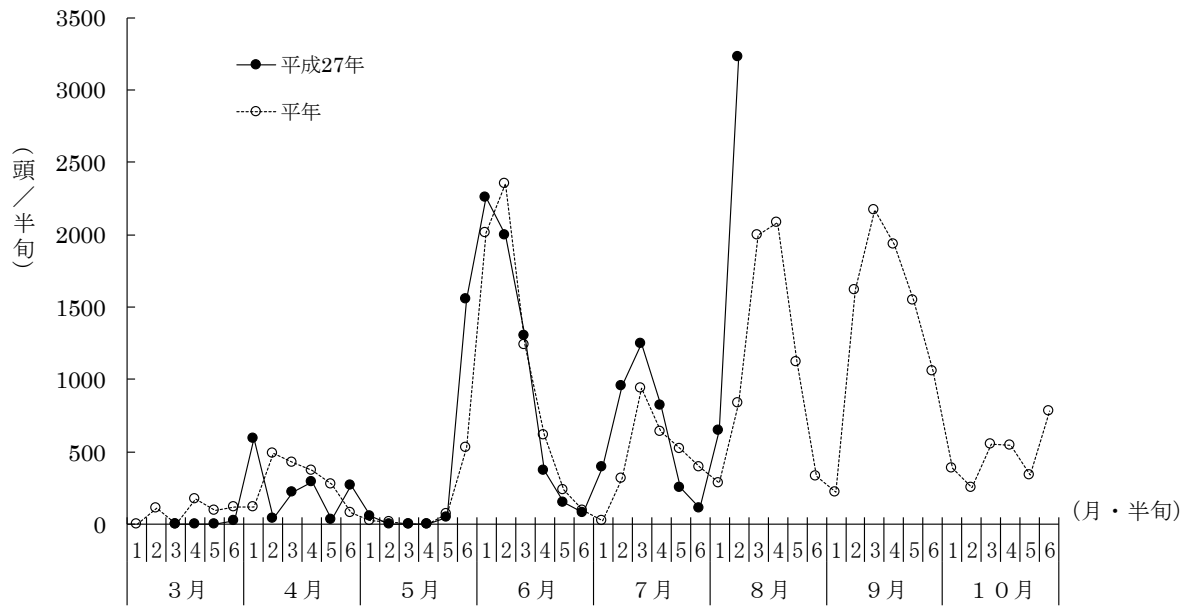


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、寄生葉率は0.2%（0.5%）、発生圃場率は5.0%（14.5%）であった。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は4.9頭（3.0頭）、発生圃場率は50.0%（56.4%）であった。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、寄生株率は1.2%（7.3%）、発生圃場率は35.0%（37.5%）であった。

【参考】

気象

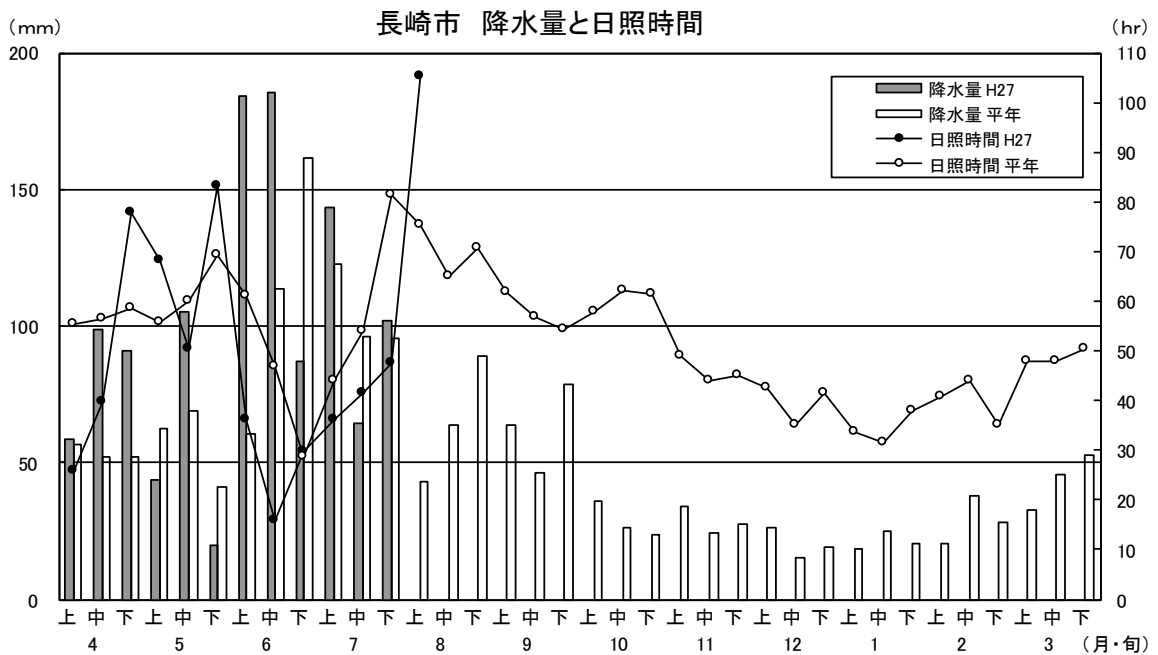
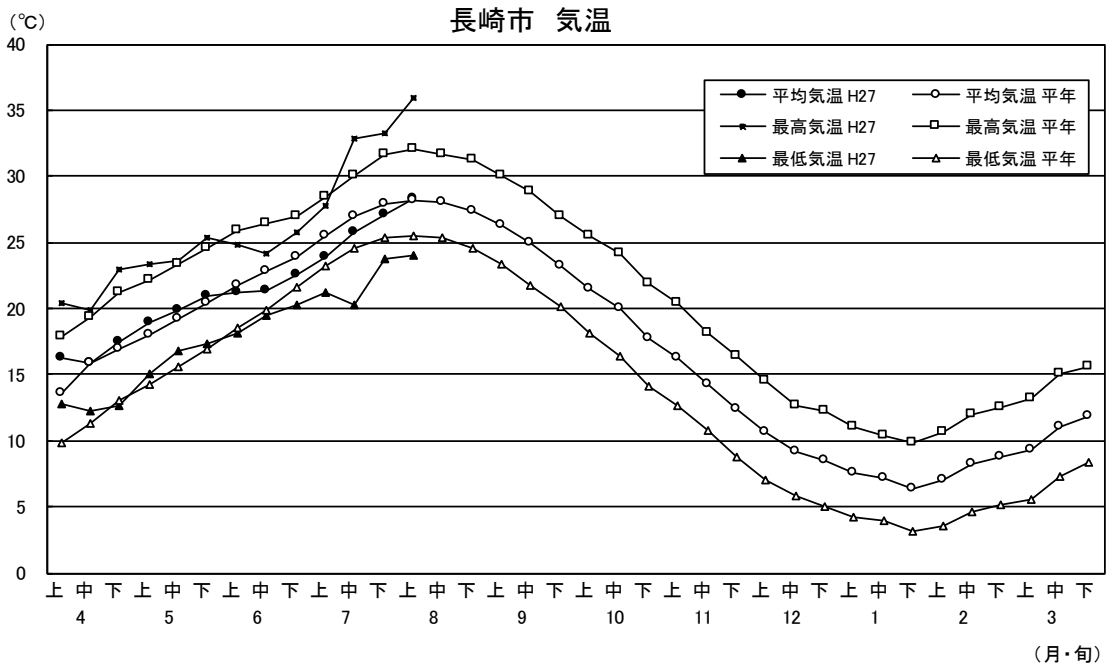
(平成27年8月13日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

※予報対象地域：九州北部地域

平成27年度の気象経過 (長崎地方气象台)



-
- 6月1日から8月31日までの3ヶ月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。
 - 水稻穂吸汁性カメムシ類防除のため水田に散布する殺虫剤により、「蜜蜂」に被害が生じる可能性がありますので、十分な配慮をお願いします。
 - 長崎県病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「長崎県病虫害防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>
 - この情報に関するお問い合わせは、電話をお願いします。
長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027

